

●●●●●●●●●● 地域医療連携推進室からのお知らせ ●●●●●●●●●●

がん講演会（専門的ながん医療に関する研修）のご案内

日時	内容
平成26年3月7日(金) 18:30～19:30	演題:家族性腫瘍診療の意義と課題 当院での取り組み 講師:(公財)がん研究会有明病院 細胞診断部長 兼 婦人科副部長 杉山 裕子 先生
場所	主催
福井県立病院3F 講堂	福井県立病院(都道府県がん診療連携拠点病院)

がん診療に携わる医療機関の医師及び医療従事者を対象に、上記研修会を開催します。皆さまのご参加をお待ちしております。

**福井県立病院 がん医療センター・陽子線がん治療センター
「市民公開講座」を開催しました**

1月26日(日)、福井県民ホール(アオッサ8階)で市民公開講座を開催しました。当院の医師3名が講師となって、底侵襲手術や放射線治療、抗がん剤治療など最新のがん治療についてわかりやすく解説するとともに、それぞれの治療の評価について説明をしました。公開講座には400人と多くの方が参加され、熱心に耳を傾けていました。

- ◎テーマ◎ 知っていますか? 最新のがん治療
- 講演1 家族と自分のために、がんに対する新しい放射線治療を知ろう!
(核医学科主任医長 玉村 裕保)
- 講演2 からだにやさしい肺がんの外科治療 ～早く見つけて、確実に治そう～
(外科医長 田村 昌也)
- 講演3 肝臓・胆道・膵臓の新しいがん治療
(外科医長 前田 一也)

●●●●●●●●●● 開放型病床カンファレンス開催スケジュール ●●●●●●●●●●

日時	内容	講師・演題
平成26年2月27日(木) 19:00～20:30	開放型病床 カンファレンス	症例検討 / 消化器内科医長 有塚 敦史「肝障害の1例」 ミニレクチャー / 麻酔科主任医長 藤林 哲男「皆で考える緩和ケア」

**福井県立病院
地域医療連携推進室**

TEL/(0776)57-2900
FAX/(0776)57-2901※
受付時間/8:30～18:00
月～金(祝祭日を除く)

※上記のFAXについては、時間外・土・日曜日および祝日は救命救急センターへ切り替わります。

**緊急の場合は救命救急センターへ
お願いします。
救命救急センター**

TEL/(0776)57-2990
FAX/(0776)57-2991



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

- 新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)
- テレビ番組 「おはようふくい730」(FBC/日曜)
- // 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)
- // 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)
- 広報誌 「県政広報ふくい」(年6回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。
問い合わせ: 県広報課 TEL / 0776-20-0220

福井県立病院 理念 私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

〒910-8526 福井市四ツ井2丁目8-1 <http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/>

CONCERTO

第34号

**2014年春 血管造影装置の更新・導入完了
～誇るべき設備、最高の環境のもとに～**



放射線科主任医長
吉川 淳

新病院が開院して10年が経ちました。当院では画像診断機器のほとんどを開院時に新規導入したため更新時期を迎えています。画像診断装置は高価で更新工事期間も長く、当院のように多数の大型機器を備える施設では5-10年といった期間に順次更新を計画するのが通常です。今年度は幸いに3部屋の血管造影装置の同時更新が可能となり、2月末には全ての更新・導入が完了します。こうした装置群を一般病院で揃えることは難しく、当院のように3部屋全てに最新鋭機を揃えることができるのは幸せなことです。最近のステント、マイクロカテーテルをはじめとする治療機器は繊細・小型化が進み、精密・高性能な透視機能の機器でのみ視認可能といったものも登場しています。新規導入された機器の性能はこうした要求に今後長くにわたり十分に対応可能です。

心臓カテーテル室と脳血管造影室にはPhilips社製Anuraが設置され、両装置は外見はほとんど同じですが各領域に特化した機能を持つ他に脳血管造影室はフラットパネルを応用したコンビームCT機能も備えています。腹部・IVR室には東芝製IVR-CT装置が導入されますが、本装置は80cmという大型の口径を持つ特殊機でCTガイド下の様々な手技が可能となります。当院はすでに診断専用機として16、64、320列CTが備えられていますが、IVR専用機してIVR-CT、さらにコンビームCTも使用可能という、診断・IVR施行としては最高の環境が整備されます。

血管造影室は放射線部門内に整備されると同時に救命救急外来および救急病棟にも属しており、緊急検査患者の迅速な対応に適した配置です。特筆すべきは、緊急血管造影・IVRに対応可能な看護師が24時間血管造影室に隣接した救急病棟内に配置されていることで、現時点では血管造影室の機能としては北陸随一と自負しています。今後は医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師といった臨床側と事務が一体となって、この誇るべき設備、環境を有効に機能・維持して行きたいと考えています。



◆心カテ装置
Allura Xper FD 10/10
Philips社製

開放型病床の利用と病診連携による地域医療について



藤田医院（あわら市）
藤田 博明

私は昭和52年より約5年間県立病院内科に在職した縁もあり、当初の開放型病床運営委員会に医師会側委員として参加しました。以来開放型病床の利用を始め、地域医療連携室を通じ患者さんの県立病院各科諸先生への紹介や御高診依頼、またCT、MRI等の検査依頼などをお願いし県立病院には日頃大変お世話になり感謝しております。

当院は昭和12年私の両親が当時の坂井郡本荘村に開業し、以来田舎の診療所として地域医療に一定の役割を果たして来ましたが、昭和57年診療所を建

て替えて私が継承し、当初は有床診療所として再スタートしました。現在は無床診療所となりましたが、主として坂井地区医師会の訪問看護ステーションと連携し高齢者の在宅医療や在宅での終末期医療にも取り組み地域医療に貢献できればと思っています。日常診療ではできるだけ質の高い実地臨床を実践することを目標としていますが、そのために県立病院をはじめとする福井坂井医療圏の基幹病院や地域の病院との病診連携が非常に大切で、特に入院患者さんをお願いした時は病院に出向いて共同診療をできるだけ実行したいと思っています。

前述しました在宅医療の実践のためには地域の病院との病診連携が大切で、私は昨年6月まで4年間坂井地区医師会会長を務めさせていただきましたが、坂井地区医師会ケアセンターのスタッフの協力の下、福井県や東京大

学のアドバイスも頂き、坂井地区の在宅医療体制作りに取り組みました。まだまだこれからですが坂井地区医師会新執行部やスタッフの方々にも更に期待し、私も会員の一人として参加していきたいと思っています。

今後の地域医療連携については病院と登録医がお互いに十分な情報交換を日頃より実施し共同診療や公開講座にも参加することで患者さんのより信頼が得られる連携作りができと思っています。今後とも県立病院の諸先生方、スタッフの方々にはよろしくお願い申し上げます。



進化し続けるMRI、期待される今後に向けて



放射線室
放射線技師主任
村中 良之

平成16年の開院時より使用してきました2台のMRI装置ですが、25年度に1.5T(12月更新済)と3T(3月更新予定)の更新を行います。

導入する装置はGE社Signa HDxt1.5TとDiscovery MR750w 3Tです。

1980年代初頭に臨床の場に登場したMRIは大いなる発展を遂げ、今でも日々進化し続けています。最近の装置は全身の形態情報から機能情報まで行えるようになりました。

例を挙げますと脳や心臓の血流、機能情報肝臓の硬さの情報「MRエラストグラフィ」が得られるようになります。これは

外部から与えられた振動をもとに、MRIで体内組織の弾性を画像化するもので、組織の相対的な硬さを色分け表記できるのが最大の特長です。臨床的には罹患数が増加傾向にある肝疾患の進行度診断に高い有用性が期待されています。

北陸初の「SILENT SCAN」も撮像法限定で行えます。これは従来のMRI検査時に発生する騒音の一部を「発生させない」事に成功した世界初の音のしないMRI撮像技術です。これまでの装置では、車のクラクションと同程度の激しい騒音の中で患者さんは検査を受けなければならなかった検査でした。それがスキャンしない状態(検査環境音)に対してわずか3dB以下の音量という、ほとんど音のしない撮像を実現しました。

他、開口径のより広いワイドボアを採用しました。身体の大きな方、狭いところが苦手な方にも対応することが可能です。また非造影MRAが胸腹部、下肢等

も行えます。これら以外で紹介できない撮像技術がまだまだたくさんあります。

現状は予約でお待たせすることもあります。地域医療連携推進室にご連絡いただければ当日の緊急検査にも対応しております。

今後とも地域医療の支援ができるよう検査体制を充実させてまいります。



◇3TMRI装置

血管病センター開設のお知らせ～診療科の枠を超え最適な治療の提供を～



心臓血管外科医長
西田 聡

【こあいさつ】

高齢者人口の増加にともなう動脈硬化性疾患の増加に加え、糖尿病や血液透析症例の急増は血管病変の病態を複雑化し、複数の診療科、診療部による集学的治療が必須となっております。福井県立病院では、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科が中心となり、血管病治療に難渋する患者さんに最適な治療を提供することを目的として、「血管病センター」を設立しました。全身のあらゆる血管病変に対して手術とカテーテル治療の両方を24時間体制で施行できる唯一の施設です。

福井県立病院血管病センター代表
循環器内科主任医長 青山 隆彦
心臓血管外科医長 西田 聡
脳神経外科主任医長 木多 真也

【受診方法】

窓口は従来と変わりなく、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科外来となります。血管病センターの専門外来はございません。まずは受診した科で診察を受けていただき、その後各診療科での診察をお勧めする形を取ります。診療科の枠を超えて診療いたします。

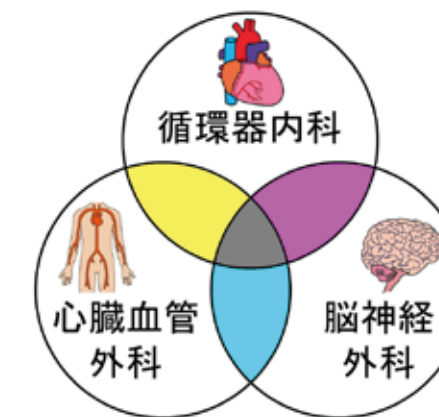
例) 足の冷えがある。
→まずは心臓血管外科にご紹介ください。下肢動脈の評価を行います。
→同時進行で、循環器内科、脳神経外科で全身血管病の精査を進めます。

※血管病センターへの適応基準は独自で定めております。たとえ無症候であっても、①糖尿病がある、②40歳以上の女性で喫煙している、③動脈硬化のリスク2項目以上を有する場合は適応と考えております。ハイリスクの方はお気軽にご紹介ください。

【対象疾患】

当センターが主に診療する疾患は下記の通りですが、心臓および血管に関わるあらゆるご相談にお答えします。

- 冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）
- 弁膜症
- 不整脈
- 大動脈瘤（胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤）
- 閉塞性動脈硬化症
- 脳血管疾患（脳動脈瘤など）
- 頸動脈狭窄
- 腎動脈狭窄
- 静脈疾患（下肢静脈瘤、深部静脈血栓症）
- バスキュラーアクセス（内シャントなど）



◇左より 木多主任医長 西田医長 青山主任医長

